第３次富山市上下水道事業中長期ビジョン(案)【概要】

1　策定の趣旨

富山市上下水道事業中長期ビジョン（以下「ビジョン」という）は、平成 19(2007)年度からスタートした富山市総合計画を上位計画として、上下水道事業のあるべき姿と目指す方向性を明らかにするため、第１次から第２次ビジョンへと次のコンセプトを中心に据えて事業を推進し、水道水の安定供給や快適な生活環境の確保を図ってきました。

この間、本市上下水道事業を取り巻く環境は大きく変わり、人口減少や上下水道インフラの老朽化、自然災害の激甚化・頻発化、物価、エネルギーコストの上昇など課題は多岐にわたります。

こうした時代変化や課題に的確に対応し、将来にわたり安定した上下水道サービスを提供していくため、「メリハリ」と「見える化」による事業マネジメントの推進をコンセプトに、令和 9(2027)年度を初年度とした「第 3 次ビジョン」を策定するものです。

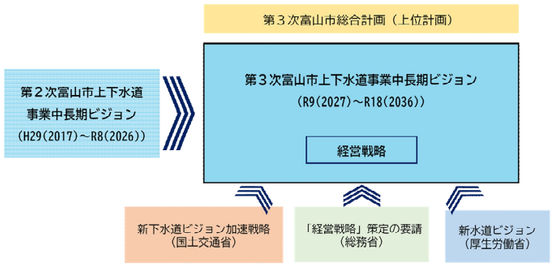
〇コンセプト

第１次ビジョン…「施設整備・拡張」を中心とした事業の推進
（平成 19 年～平成 28 年）
第２次ビジョン…「施設の維持管理」を中心とした事業の推進
（平成 29 年～令和 8 年）
＜今回＞第３次ビジョン…「メリハリ」と「見える化」による事業マネジメントの推進

2　ビジョンの位置付けと計画期間

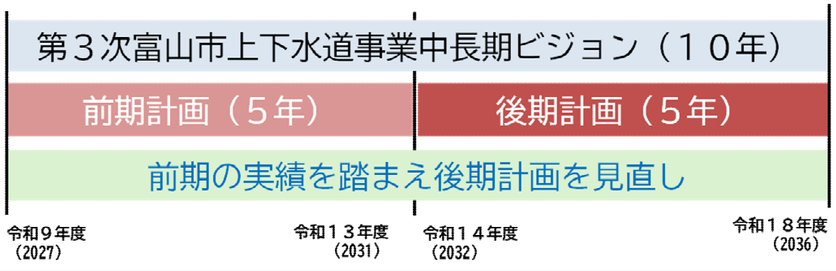
（1）ビジョンの位置付け

・本市の最上位計画「第3次富山市総合計画」と整合を図る
・第2次ビジョンの施策の進捗状況を踏まえ、国の「新水道ビジョン」等の趣旨を考慮
・本市上下水道事業の基幹計画とするとともに「経営戦略」として位置付け



（2）計画期間

第 3 次ビジョンの計画期間は令和 9(2027)年度から令和 18(2036)年度までの 10 か年とし、前期の実績を踏まえて後期計画を見直し、各事業を着実に推進します。



3　富山市の上下水道事業を取り巻く現状と課題

（１）人口減少　…　水需要の減少に伴う上下水道収益の減少
（２）上下水道インフラの老朽化　…　上下水道施設の老朽化の進行に伴う更新需要の増大
（３）自然災害の激甚化・頻発化　…　自然災害に対して強靭な上下水道施設の構築
（４）下水道管路マネジメントの強化　…　管路の維持管理のための業務量・事業費の増大
（５）物価、エネルギーコスト等の上昇　…　物価等の上昇に対応する経営基盤の確保
（６）専門人材の不足　…　技術継承や施設整備の遅れなどの懸念
（７）事業者数の減少　…　施設整備や維持管理などに支障発生の恐れ

4　ビジョンの内容

（1）２０５０年の富山市上下水道の理想像（あるべき姿）

上下水道に関するタウンミーティングやワークショップ等の活動を通して、現在市民の「思い」と同時に将来市民が持つであろう「希望」や「願い」などから、２０５０年における富山市の上下水道の理想像（あるべき姿）を描きます。

①現在（２０２６年）と変わらず、２４時間３６５日いつでも安全・安心で安定した上下水道サービスが提供されている。
②地震や豪雨など大規模な自然災害に対して強靭な上下水道インフラが整備されている。
③環境にやさしく低炭素社会の実現にも貢献した事業運営が行われている。
④健全な経営が維持された状態である。

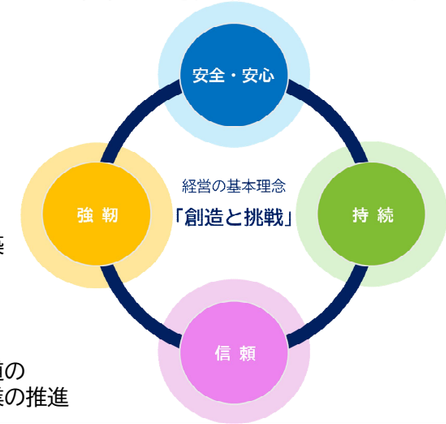
（2）経営の基本理念

2050 年の富山市上下水道の理想像(あるべき姿)を追い求めるには、従来からの習慣や固定観念にとらわれず社会経済情勢の変化や時代の潮流に柔軟に対応しながら、知恵を絞り、情熱を傾け、職員が一丸となって、お客さまと共に新たな価値を「創造」する姿勢が重要です。そして、現状に満足することなく自ら課題を把握し、その解決に向けて果敢に「挑戦」し続けることで、お客さまの安全安心な生活を支える上下水道を持続可能なものとして未来へと引き継いでいきます。

（3）経営の基本方針

基本理念である「創造と挑戦」を実践していくため、次の４つの経営の基本方針を定めます。

① 安全・安心
安全・安心でおいしい水道水の安定供給と健全な水環境の創出
② 強靭
災害等の危機事象に対して強くしなやかな上下水道インフラの構築
③ 持続
健全経営の維持と上下水道サービスの未来への継承
④ 信頼
上下水道のユーザーでありオーナーでもあるお客さまとの上下水道の課題や理想像についての共有とお客さまとの信頼関係に基づく事業の推進



（4）施策の体系（ 政策　と 主要施策 ）

２０５０年の富山市上下水道の理想像（あるべき姿）を追い求め、経営の基本理念と経営の基本方針に基づき、今後１０年間で取り組む１０の政策と３８の主要施策を定めます。

経営の基本方針	政　策		主要施策		区分	主な取組内容
【安全・安心】 安全・安心なおいしい水道水の安定供給と健全な水環境の創出が具現化されている。	1	水道水の安全性の向上	1	適切な水質検査の実施	継続	安全な水道水を利用者へ提供するため、水質検査計画で定めた水質検査を着実に実施します。
			2	鉛製給水管の布設替えの計画的な推進	新たに挑戦	平成４年ごろまで使用されていた鉛製給水管を計画的に安全なポリエチレン管に交換します。
	2	下水道による水環境の向上	3	水環境の保全	継続	家庭などから流れ着いた汚水を処理場できれいにし、海や川へ返します。
	3	上下水道管路の改築及び上下水道基幹施設の計画的な更新	4	老朽水道管の更新	継続	老朽化する膨大な水道管に対し、優先順位を定めたメリハリの利いた更新計画を策定することにより効率的かつ効果的な更新を実施します。
			5	老朽下水道管の更新	継続	老朽化する膨大な下水道管に対し、優先順位を定めたメリハリの利いた更新計画を策定することにより効率的かつ効果的な更新を実施します。
			6	流杉浄水場の再整備	新たに挑戦	本市最大規模の水道基幹施設である流杉浄水場の再整備を進めます。
			7	下水処理場の大規模設備の更新	新たに挑戦	浜黒崎浄化センターなど下水処理場の大規模設備更新事業を計画的に推進します。
	4	上下水道管路・施設の適切な維持管理	8	水道施設の維持管理	継続	水道水の安定供給のため、浄水場などに設置されている機器や設備の適切な点検及び修繕を行います
			9	水道管の維持管理	継続	水道水の安定供給、漏水による道路陥没を防ぐため水道管の適切な点検及び修繕を行います。
			10	下水道施設の維持管理	継続	汚水処理を着実に行うため処理場などに設置されている機器や設備の適切な点検及び修繕を行います。
			11	下水道管の維持管理	継続	汚水処理を着実に行うほか、下水道管破損による道路陥没等を防ぐため下水道管の適切な点検及び修繕を行います。
【強靭】 災害等の危機事象に対して強くしなやかな上下水道インフラの構築が具現化されている。	5	災害対応力の強化	12	上下水道システムの冗長性の確保	継続	災害発生等の非常時に備え、上下水道管のループ化や複線化など、冗長性がある上下水道システムの構築を進めます。
			13	マンホールトイレの整備	継続	災害時にも避難所等においてトイレが使用できるよう、避難所等へのマンホールトイレの設置を進めます。
			14	内水ハザードマップの作成	新たに挑戦	激甚化する集中豪雨への備えとして、豪雨時に危険箇所や避難施設を示した内水ハザードマップを作成します。
			15	上下水道台帳のクラウド化	新たに挑戦	災害時に上下水道施設の点検から復旧までの情報を一元的に管理することで、復旧に向けて迅速に対応できるよう、上下水道台帳のクラウド化を進めます。
			16	ＢＣＰの改定の実施	継続	災害発生時における業務継続計画(BCP)のアップデートを行います。
			17	実践的訓練の実施	継続	大規模な自然災害に直面しても、市民の命と生活を支える上下水道インフラの機能維持や早期復旧ができるよう、他の事業体等や地域住民と連携した実践的訓練を実施します。
			18	落雷への対応強化	新たに挑戦	水道施設への落雷による給水停止に対応し、安定した水の供給を実現するため、自家発電設備の整備や施設の更新に合わせた避雷器の設置などにより対応を強化します。
			19	上下水道施設の耐震化	更に前進	能登半島地震の教訓を踏まえ、上下水道システムの「急所」や避難所等の「重要施設」に接続する管路など上下一体での耐震化を推進します。
			20	上下水道施設の耐水化	新たに挑戦	河川氾濫等が発生し、上下水道施設が浸水した際にも、最低限の機能を確保するため、上下水道施設の耐水化を推進します。
			21	浸水対策の推進	更に前進	大雨の際にも浸水しない強靭なまちづくりを支えるため、 「富山市浸水対策基本計画」に基づき、雨水幹線の整備や合流式下水道の改善など、浸水対策を推進します。
【持続】 健全経営の維持と上下水道サービスの未来への継承が具現化されている。	6	持続可能な上下水道システムの構築	22	汚水処理システム全体の最適化	新たに挑戦	人口減少やまちづくり等の実情を踏まえ、将来の下水道区域から浄化槽区域への転換や処理場の統廃合など持続可能な汚水処理を実現するための計画策定を進めます。
			23	上下水道施設規模の最適化（ダウンサイジング）	新たに挑戦	将来の水需要の減少に適応するため管路のダウンサイジング化や処理場の統廃合などの検討を進めます。
			24	公共下水道事業と農業集落排水事業との統合（一元化）	継続	資産の合理的な再編や、汚水処理システムの冗長性の観点を踏まえ、公共下水道施設と農業集落排水施設との統廃合など、地域特性に応じた最適な汚水処理体制の構築を目指します。
	7	経営基盤の強化	25	上下水道料金の適正化	継続	将来にわたり上下水道を安定的に維持するため、上下水道施設の更新計画等の見直しに合わせた料金の見直しなど投資と収益のバランスに配慮した経営を行います。
			26	デジタル技術の活用による上下水道DXの推進	新たに挑戦	人口減少による人的リソースなどの制限に加え、上下水道施設のマネジメントを強化していくため、デジタル技術を活用した上下水道DXを推進します。
			27	業務執行体制の見直しと官民連携の推進	更に前進	上下水道サービスの安定的な提供を支える職員の減少等の課題に対応するため、下水道分野（公共下水道及び農業集落排水等の管路施設）における「水の官民連携」（ウォーターPPP）の導入や、汚水処理場の包括的民間委託の拡大など民間活力の導入を進めます。
			28	資産の有効活用	更に前進	施設の統廃合等により現在使用せず、また今後も活用の見込みのない不動産について、売却等の整理を具体的に進めます。
			29	新しい工事発注方法の導入	新たに挑戦	設計・施工一括発注方式（デザインビルド方式(ＤＢ方式)）などの効率的な工事発注方法の導入の検討を進めます。
			30	人材の確保・育成	更に前進	人材の確保に努めるとともに新たに人材育成方針を定め、次代を担う上下水道技術者の育成を図ります。
			31	エンゲージメントの向上	新たに挑戦	職員の組織への愛着・帰属意識の醸成や業務への意欲向上を図ることで、組織力の向上を目指します。
	8	脱炭素・資源利用の推進	32	汚泥等の資源の有効活用	新たに挑戦	浄水の過程で発生する浄水発生土や下水処理の過程で発生する下水汚泥を資源と捉え、有効活用し環境負荷の低減を図ります。
			33	温室効果ガスの排出削減と再生可能エネルギーの有効活用	継続	小水力や消化ガス、太陽光などの再生可能エネルギーを有効活用しCO2の排出量を抑制し、ゼロカーボンシティ政策に貢献します。
【信頼】 上下水道のユーザーでありオーナーでもあるお客さまと上下水道の課題や理想像(あるべき姿)が共有され、お客さまとの信頼関係に基づき事業が推進されている。	9	お客さまとの信頼関係の構築	34	双方向のコミュニケーションの推進	更に前進	上下水道に関するタウンミーティングやワークショップ等を通じて、お客さまに上下水道の理解を深めていただくとともに、将来にわたり持続可能な上下水道とするために解決すべき課題等について共に考え、信頼関係を醸成します。
			35	積極的な情報発信	更に前進	上下水道局公式ホームページや公式LINE、情報紙「上下水道局だより」などを活用し、わかりやすい情報発信に努めます。
	10	お客さまサービスの向上	36	お客さまニーズの把握	継続	上下水道アンケートの実施など、様々な機会を捉えて幅広くお客さまのニーズを把握し、事業運営に活かします。
			37	お客さまの利便性の向上	更に前進	お客さまの利便性向上のため、オンラインによる納付手続きの多様化を推進します。
			38	水道水のＰＲの推進	新たに挑戦	外出先でおいしい水道水を補給できる環境を整えるとともに、市外の方にとやまの水のすばらしさを体感していただきます。

５　第１次～第３次中長期における建設改良費(投資)総額比較表

		第１次上下水道事業中長期ビジョン 平成19(2007)年度～平成28(2016)年度 当初計画額 （投資実績）	第２次上下水道事業中長期ビジョン 平成29(2017)年度～令和8(2026)年度 当初計画額 （投資実績・見込）　※R8年度は見込	第３次上下水道事業中長期ビジョン 令和9(2027)年度～令和18(2036)年度 投資計画（案）
水道事業	１０年間の建設改良費総額	４５，１９５百万円 （４４，４２７ 百万円）	４１，７８６ 百万円 （４２，７９１ 百万円）	７５，９７８ 百万円 （対第２次ビジョン当初計画比 ＋34,192百万円　＋81.8%）
	主な内訳 （第1次と第２次は実績額）	・流杉浄水場１系(日量10万㎥)の改築（H19～H20）　約103億円 ・水道施設の耐震化　約 63億円 （H23～H28 配水幹線） ・老朽水道管の更新　約172億円 （H19～H24 旧簡易水道施設の統廃合・再編）	― ・水道施設の耐震化　約267億円 （基幹管路・急所施設・重要施設に接続する管等） ・老朽水道管の更新　約135億円	・流杉浄水場２系(日量5万㎥)の再整備（R9～R18）　約 80億円 ・水道施設の耐震化　約524億円 （基幹管路・急所施設・重要施設に接続する管等） ・老朽水道管の更新　約104億円
公共下水道事業	１０年間の建設改良費総額	８４，４１７ 百万円 （６３，１０３ 百万円）	５６，３４９ 百万円 （５２，８２３ 百万円）	８３，６７１ 百万円 （対第２次ビジョン当初計画比 ＋27,322百万円　＋48.5%）
	主な内訳 （第1次と第２次は実績額）	・下水処理場の大規模設備の更新　約 90億円 ・下水道施設の耐震化　約　2億円 ・下水道管路マネジメントの推進　約 31億円 （老朽化対策） ・雨水幹線等の整備　約173億円 （H24～H28　松川雨水貯留管施設の整備）	・下水処理場の大規模設備の更新　約 94億円 ・下水道施設の耐震化　約 58億円 ・下水道管路マネジメントの推進　約105億円 （老朽化対策） ・雨水幹線等の整備　約137億円	・下水処理場の大規模設備の更新　約316億円 （浜黒崎浄化センターなど） ・下水道施設の耐震化　約136億円 ・下水道管路マネジメントの推進　約123億円 （老朽化対策） ・雨水幹線等の整備　約118億円

≪用語解説≫
急所施設 … その施設が機能を失えば上下水道システム全体が機能を失う最重要施設
［水　　道］取水施設、浄水場、配水池、導水管、送水管
［下水道］下水処理場、下水処理場直前の合流地点のポンプ場、これらに接続する下水道管
重要施設 … 避難所、防災拠点、災害拠点病院など

（水道管の区分）
導 水 管　… 水源で取水した水道原水（河川水や地下水など）を浄水施設へ導くための水道管
送 水 管　… 浄水施設で浄化処理（消毒等）した浄水（水道水）を配水池へ送るための水道管
配 水 管　… 配水池から家庭などへ水道水を供給するための水道管

基幹管路　… 水道水を供給するうえで重要な管路である導水管、送水管、配水本管（配水幹線：配水管のうち口径350㎜以上で給水管の分岐の無いもの）のこと

6　成果指標と目標値 ＜第３次中長期ビジョン＞

（１）水道事業

目標値 / 成果指標	基準年度	目標年度	
	令和8年度	令和13年度	令和18年度
①基幹管路の耐震化率 ≪対象延長：239.4km≫	47.0% （112.7km）	56.8% （136.2km）	61.8% （148.0km）
②重要施設の耐震化率 ≪対象施設数：236箇所≫	40.6% （96箇所）	45.7% （108箇所）	73.3% （173箇所）
③急所施設の耐震化率 ≪対象施設数：447施設≫	27.5% （123施設）	29.0% （130施設）	38.0% （170施設）
④老朽水道管の更新率（S53以前塩ビ管） ≪対象延長：125.0km≫		12.0% （15.1km）	31.8% （40.0km）
⑤全水道管路の耐震化率 （耐震管路延長／全体管路延長）	45.0% （1,454.5km ／3,227.8km）	47.0% （1,534.4km ／3,260.3km）	49.7% （1,639.6km ／3,292.8km）

（２）下水道事業

目標値 / 成果指標	基準年度	目標年度	
	令和8年度	令和13年度	令和18年度
①リスクの高い重要な下水道管の点検延長 ≪対象延長：746.0km≫		373.0km （50.0%）	746.0km （100.0%）
②全国特別重点調査に基づく対策完了率 ≪対象延長：7.6km≫	21.1% （1.6km）	100.0% （7.6km）	100.0% （7.6km）
③下水処理場等の大規模設備更新率 ≪対象設備数：32設備≫		53.1% （17設備）	100.0% （32設備）
④マンホールトイレの整備率 ≪対象施設数：78箇所≫	11.5% （9箇所）	24.4% （19箇所）	37.2% （29箇所）
⑤上下水道システムの機能が確保されている重要施設の割合 ≪対象施設数：199施設≫	5.5% （11施設）	12.1% （24施設）	30.2% （60施設）
⑥浸水被害を軽減した区域の面積 ≪対象面積：76.27ha≫	4.32ha （5.7%）	7.44ha （9.8%）	8.73ha （11.4%）

7　投資・財政計画

計画策定にあたっては、これまでの実績と今後の人口減少等を踏まえて収益を積算するとともに、計画期間内において予定している事業等を基に積算しました。富山市の上下水道事業を取り巻く現状と課題への対応では多くの費用が必要となり、大変厳しい経営環境が見込まれますが、将来世代に安全安心な水道水と快適なくらしをつないでいくためには、施設の更新などの投資が必要不可欠であり、経費削減の徹底などの経営努力を重ね、収益と投資のバランスを取りながら確実な事業の推進に努めます。

＜水道事業会計＞

単位：百万円

収益的収支（税抜）
　収入：水道料金など
　支出：施設の維持管理費用

ビジョン前期（５年）／ビジョン後期（５年）
料金算定期間（４年）／現行料金体系の維持を目指す／赤字となる見込み（料金改定の検討が必要）

科目・年度	例	R8（当初予算ベース）	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
収入　①		8,480	8,464	8,436	8,415	8,389	8,358	8,315	8,269	8,216	8,155	8,084
【内訳】営業収益	水道料金などの収益	7,413	7,356	7,321	7,287	7,252	7,214	7,175	7,136	7,098	7,059	7,011
営業外収益	水道料加入金などの収益	1,061	1,101	1,108	1,121	1,129	1,137	1,133	1,125	1,111	1,088	1,065
特別利益	水道メーターの売却益など	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
支出　②		7,740	7,327	7,617	7,768	8,047	8,310	8,546	8,862	9,004	9,242	9,797
【内訳】営業費用	電気代や薬品費、委託費など	6,952	6,585	6,803	6,852	7,027	7,170	7,318	7,501	7,521	7,615	8,004
営業外費用	企業債の利息など	777	729	801	904	1,008	1,128	1,216	1,349	1,470	1,615	1,782
特別損失	過年度の決算数値修正など	10	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
当年度純損益　①-②		**740**	**1,137**	**819**	**647**	**342**	**48**	**▲ 231**	**▲ 593**	**▲ 788**	**▲ 1,087**	**▲ 1,713**

資本的収支（税込）
　収入：金融機関からの借入、国からの補助金など
　支出：施設を作ったり、直したりする費用

科目・年度	例	R8（当初予算＋R7繰越）	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
収入　③		6,670	3,917	5,072	5,032	5,186	4,295	5,629	5,366	6,053	7,043	9,219
【内訳】企業債	金融機関からの借入	4,749	3,119	3,835	3,844	4,248	3,393	4,701	4,436	5,155	5,824	7,977
出資金	市からもらうお金	67	63	60	55	50	46	39	33	27	21	20
国庫補助金	国からの補助金	1,574	660	1,070	1,066	830	798	829	837	808	1,135	1,157
その他	※１	280	75	108	67	57	58	60	61	63	64	66
支出　④		11,350	7,846	8,980	9,004	9,118	8,037	9,731	9,430	10,257	11,439	14,015
【内訳】建設改良費	施設を作ったり、直したりする費用	8,998	5,556	6,751	6,797	6,958	5,916	7,604	7,284	8,053	9,208	11,851
企業債償還金	金融機関への返済元金	2,352	2,290	2,229	2,207	2,160	2,121	2,127	2,145	2,204	2,231	2,164
資本的収支不足額　③-④		▲ 4,680	▲ 3,929	▲ 3,908	▲ 3,972	▲ 3,932	▲ 3,742	▲ 4,102	▲ 4,064	▲ 4,204	▲ 4,396	▲ 4,796

建設改良費合計額　75,978

※１　道路工事等により水道管を移設する際に道路管理者から支払われるお金

＜公共下水道事業会計＞

単位：百万円

収益的収支（税抜）
　収入：下水道使用料など
　支出：施設の維持管理費用

ビジョン前期（５年）／ビジョン後期（５年）
使用料算定期間（４年）／現行料金体系の維持を目指す／赤字となる見込み（使用料改定の検討が必要）

科目・年度	例	R8（当初予算ベース）	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
収入　①		15,794	15,830	15,674	15,623	15,465	15,354	15,323	15,245	15,209	15,218	15,253
【内訳】営業収益	下水道使用料などの収益	11,762	11,811	11,654	11,553	11,392	11,224	11,165	11,034	10,930	10,831	10,790
営業外収益	市からもらうお金など	4,032	4,018	4,020	4,069	4,073	4,130	4,159	4,211	4,279	4,387	4,463
支出　②		14,442	14,611	14,753	15,057	15,072	15,345	15,553	15,783	15,967	16,207	16,468
【内訳】営業費用	電気代や薬品費、委託費など	13,353	13,494	13,631	13,847	13,812	14,013	14,170	14,348	14,460	14,615	14,792
営業外費用	企業債の利息など	1,074	1,093	1,098	1,185	1,236	1,308	1,358	1,410	1,482	1,568	1,652
特別損失	過年度の決算数値修正など	15	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
当年度純損益　①-②		**1,352**	**1,219**	**921**	**566**	**393**	**9**	**▲ 230**	**▲ 538**	**▲ 758**	**▲ 989**	**▲ 1,215**

資本的収支（税込）
　収入：金融機関からの借入、国からの補助金など
　支出：施設を作ったり、直したりする費用

科目・年度	例	R8（当初予算+R7繰越）	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
収入　③		10,824	6,985	10,792	8,508	8,304	7,188	7,527	8,532	8,829	8,490	7,484
【内訳】企業債	金融機関からの借入	5,036	2,904	5,079	3,838	4,194	3,489	3,477	3,949	4,167	4,051	3,630
出資金	市からもらうお金	1,738	1,505	1,384	1,117	931	704	580	460	337	315	319
国庫補助金	国からの補助金	3,932	2,435	4,188	3,412	3,039	2,855	3,328	3,982	4,184	3,983	3,395
その他	受益者負担金など	118	141	141	141	140	140	142	141	141	141	140
支出　④		17,440	12,881	16,544	14,026	13,477	11,973	12,234	12,923	13,021	12,424	11,243
【内訳】建設改良費	施設を作ったり、直したりする費用	9,726	6,365	9,747	8,240	7,769	7,440	8,015	9,072	9,602	9,224	8,197
企業債償還金	金融機関への返済元金	7,709	6,514	6,794	5,784	5,706	4,530	4,217	3,848	3,416	3,197	3,044
その他	※１	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
資本的収支不足額　③-④		▲ 6,616	▲ 5,896	▲ 5,752	▲ 5,518	▲ 5,173	▲ 4,785	▲ 4,707	▲ 4,391	▲ 4,192	▲ 3,934	▲ 3,759

建設改良費合計額　83,671

※１　水洗便所に改造する方への貸付金